

を試みた。

(3) 課題を解決する学習の中で、みんな

で話し合う活動を大事にした。

○ 自分の考えが相手にわかるように大きな声で、はきはきと話すように心がけさせた。

(二) 個に応じた指導に迫るための手だての工夫

◎ 「理解」領域、「表現」領域の基礎

的技術を明確にし、読んだり、書いたり、話したりする活動の学年別児童像をつくり、個に応じた指導のための記録へ生かした。

(1) 本時のねらいを個に即して設定し、一人一人を生かしてきた。

○ 本時のねらいを、上位児、中位児、下位児別に設定し、それに対応する児童一人一人の評価の観点を設け、一人一人に応じた指導がより効果的になされるよう配慮し、授業の改善を試みた。

(2) 「個に応じた指導のための記録」

を作成し、一人一人の実態の把握に努めた。(表3参照)

○ 単元を通して、毎時間ごとに、「個に応じた指導のための記録」へ

記入し、一人一人の到達の状況を把握し、フィードバックして遅れがちな子への指導に生かしたり、次時の学習へ役立てたりして、授業の改善

六、まとめ

(一) 研究の成果

(1) 児童が主体的に学習に取り組めるようにするために、教材の提示、学習課題づくりなどに工夫が見られるようになった。

(2) 児童一人一人を生かし、個に応じた指導を進めるために、「個に応じた指導のための記録」の累積をはかり、一人一人を伸ばす指導が行われるようになってきた。

(3) 自分の考えを大切にし、友だちの意見も取り入れながら、学習課題の解決のために真剣に取り組む、わかるまでがんばろうとする児童が見られるようになってきた。

(二) 今後の課題

(1) 少人数学級の実態を生かし、個に応じた指導の徹底を図る。

(2) 読んだり書いたり話したりする活動をさらに意欲的にさせる。

(3) ひとり学習と相互学習の効果的な在り方を探っていく。

(4) 直接指導と間接指導の効果的な在り方を探っていく。

学習意欲を育てる授業を

実現するための

指導計画の改善

—自ら学び、向上しようとする

する意欲をどう育てるか—

郡山市立郡山第三中学校

一、主題設定の理由

充実した学校生活の基本条件は、毎日の授業において、一人一人の生徒に学習が成立するところにある。本来、生徒は自ら学び、向上しようとする意欲をもっている。しかし、本校の生徒の中には、学習に意欲的に取り組めないでいる生徒も少なくない。

そこで、生徒の意欲を阻害している要因を客観的に把握するために、KJ法によるグループ討議や種々の実態調査を実施した。

その結果をまとめると、次のようになる。

○ 全体として自主性や自律性が育っていない。

○ 着実にやり抜く意志や忍耐力が弱い。

○ 目標に向かって努力したり、向上しようとする意欲が不十分である。